令和３年度沼津市温室効果ガス排出量算定結果

温室効果ガス排出量の推移(単位：千 t-CO2)

ガス種類	2013年度 基準年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2021年度増加率	
							基準年度	前年度
二酸化炭素(CO_2)	1,476.1	1,272.7	1,270.2	1,195.9	1,133.3	1,195.6	-19.0%	5.5%
メタン(CH_4)	11.96	8.80	7.67	7.71	7.61	8.37	-30.1%	9.9%
一酸化二窒素(N_2O)	15.1	15.4	15.6	15.9	15.0	13.5	-10.7%	-10.1%
ﾊｲﾄﾞﾛﾌﾙｵﾛｶｰﾎﾞﾝ(HFCs)	66.4	82.0	78.7	89.4	97.8	98.8	48.8%	1.0%
ﾊﾟｰﾌﾙｵﾛｶｰﾎﾞﾝ(PFCs)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	－	－
六ふっ化硫黄(SF_6)	8.9	18.2	0.9	6.7	6.7	6.5	-26.8%	-2.9%
三ふっ化窒素(NF_3)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	－	－
温室効果ガス計	1,578.4	1,397.0	1,373.1	1,315.7	1,260.4	1,322.7	-16.2%	4.9%
<比較>全国	1,407,338	1,286,909	1,242,073	1,206,230	1,142,344	1,164,040	-17.3%	1.9%

・2021 年度温室効果ガス排出量は 1,322.7 千 t-CO_2(全国の 0.11%)である

▪ 基準年度(2013 年度)と比較すると、16.2%(255.7 千 t-CO_2)減少している(全国は 17.3%減少)。
この主な要因は、CO_2 の排出量が 19.0%(280.5 千 t-CO_2)減少したことである。

▪ 前年度(2020 年度)と比較すると 4.9%(62.3 千 t-CO_2)増加している(全国は 1.9%増加)。
この主な要因は、CO_2 の排出量が 5.5%(62.3 千 t-CO_2)増加したことである。

二酸化炭素排出量の推移(単位：千 t-CO2)

部門	2013年度 基準年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2021年度増加率	
							基準年度	前年度
産業部門	439.3	408.6	422.9	393.6	376.0	386.4	-12.0%	2.8%
運輸部門	305.1	295.5	290.6	284.0	254.8	279.1	-8.5%	9.5%
家庭部門	337.9	287.6	276.5	251.2	262.2	261.4	-22.6%	-0.3%
業務その他部門	371.0	265.2	263.5	248.5	218.7	252.8	-31.8%	15.6%
廃棄物部門	22.8	15.8	16.7	18.5	21.6	15.9	-30.5%	-26.4%
計	1,476.1	1,272.7	1,270.2	1,195.9	1,133.3	1,195.6	-19.0%	5.5%
<比較>全国	1,317,609	1,189,645	1,144,572	1,107,477	1,042,351	1,063,699	-19.3%	2.0%

・基準年度（2013 年度）と比較すると 19.0%(280.5 千 t-CO_2)減少している(全国は 19.3%減)。

・部門ごとの主な要因は以下のとおり。

【産 業 部 門】基準年度と比較すると、12.0%(52.9 千 t-CO_2)減少している。
この主な要因は、機械製造業における CO_2 排出量が 26.4%(33.2 千 t-CO_2)減少したこと、食料品製造業における CO_2 排出量が 49.4%(29.8 千 t-CO_2)減少したことである。

【運 輸 部 門】基準年度と比較すると、8.5%(26.0 千 t-CO_2)減少している。
この主な要因は、旅客自動車における CO_2 排出量が 8.8%(17.0 千 t-CO_2)減少したことである。

【家 庭 部 門】基準年度（2013 年度）と比較すると、22.6%(76.5 千 t-CO_2)減少している。
この主な要因は、電力消費起源における CO_2 排出量が 24.1%(57.5 千 t-CO_2)減少したことである。

【業務その他部門】基準年度（2013 年度）と比較すると、31.8%(118.1 千 t-CO_2)減少している。
この主な要因は、電力消費起源における CO_2 排出量が 23.3%(57.6 千 t　t-CO_2)減少したことである。

【廃棄物部門】基準年度（2013 年度）と比較すると、30.5%(6.9 千 t-CO_2)減少している。
この主な要因は、一般廃棄物・生活系における CO_2 排出量が 36.3%(6.0 千 t-CO_2)減したことである。